

## 第1回倫理審査委員会会議の記録の概要

日 時： 平成23年4月8日（金） 15：15～

場 所： 会議室

出席者： 委員（進行）	副院長	林弘人
委員	事務部長	口藏紳一郎
	看護部長	出原陽子
	企画課長	角田康二
	薬剤科長	相良義弘
	外部委員	阿武英晴(市薬剤師会)
申請者	整形外科医長	伊原公一郎

審議事項：議題1、「腰部脊柱管狭窄診断サポートツールの有用性の検討—多施設共同横断研究—」

副院長：ただ今より受託研究審査委員会を開催します。

伊原公一郎：議題1

腰部脊柱管狭窄は、腰痛、下肢痛、および間欠跛行などを呈する代表的な病態であり、高齢者に多い。高齢社会の到来により、その頻度は増加している。しかし、腰部脊柱管狭窄の診断基準は提示されていない。日本脊椎脊髄病学会（本学会）では、腰部狭窄診断サポートツールを作成した（Konno S, et al Euro Spine J16：1951-7, 2007）。この診断サポートツールを使用することで、腰部脊柱管狭窄患者をスクリーニングすることができる。腰部脊柱管狭窄は、様々な症状を呈することから、整形外科以外の内科やプライマリケア医を受診する可能性が高いが、腰部脊柱管狭窄の認知度は低い。また、腰部脊柱管狭窄は、腰痛、下肢痛、及び間欠跛行によってQOLが低下する。しかし、加齢とともに包括的QOLが低下することから、腰部脊柱管狭窄に伴うQOLの低下がどの程度影響しているのかが不明である。さらにQOL障害の程度を科学的に示した研究は少ない。以上の事実から、加齢とともに増加する腰部脊柱管狭窄の診断を遅らせている可能性がある。腰部脊柱管狭窄診断サポートツールを普及させることで、腰部脊柱管狭窄の診断と治療の実態を把握することと、早期発見と治療に貢献することが期待できることを説明する。

各委員：出席者全員一致で了承。